

詩編 18 編 (1) 1~16 主よ、わたしはあなたを慕う (2020年5月11日分 TM)

キリスト者になりたての人には旧約聖書 3 章、新約聖書 1 章合計 4 章を毎日読むと詩編が 2 回読めて 1 年を過ごせるので数年間はそうすることを勧めます。しかし、長く読むと疲れるので、かなり長い詩編 18 編を 3 回に分けましょう。第一部救い (2-31)、第二部王の救い (32-51) と区分したり、一段 (2-4 節)、第二段 (5-20)、第三段 (21-29)、あるいは、導入の賛美 (2-4)、過去の苦難 (5-6)、主を呼び求める (7)、神の救出 (6-19)、それゆえの主の賛美 (32-43) などと区分できます。まず、心に響くのは「わたしはあなたを慕う」です。新生讚美歌 540、622 を思い起こします。口語訳は「あなたを愛する」青木澄十郎は「われ、汝を恋慕する」と翻訳します。そこで、このことを黙想し、18 編を 16 節まで読んでみましょう。導入の賛歌と救いの報告を語る (2-7) と「神顕現の描写」(8-16) がテーマです。

・「わたしはあなたを慕う」(‘erhāmeke, I love you tenderly) とは、まさに「恋慕」で、珍しい用語です。ちなみに、新生 622 の原詩は、I can hear my Savior calling を三度繰り返しています。いかなる状況の中でも、いつでも、私の救い主の呼びかけを聞くことができます。「慕いまつる主のみ招きある今」とは良い訳ではないでしょうか！新生 540 は I have found a friend in Jesus. He’s everything to me. です。ここで 540 を賛美するのも良いでしょう。主イエスよ、「君は谷のゆり、あしたの星」。私たちはあたかも恋人のように親しく、主イエスとの関係を持っているのでしょうか？

・「わたしの力よ」(hiz·qi) 詩人は、次に「私の力よ」と呼びかけます。力(hāzāq)とは強さだけでなく、確固たること、堅いことを意味しています。権力というより、信仰者を助ける力であり、彼・彼女らを活かす命の力を意味するのでしょうか。周りのあらゆるものを挙げて、神を語ります。「岩、砦、逃れ場(救済者)、神(エリ)、大岩(私が信頼する私の力 sūri)、避けどころ、盾、救いの角(wāqeren yis’i)、砦の塔(ルターの作詞の讚美歌「神はわが櫓」)。敵に囲まれるときに、具体的に護ってくれるものをこれでもか、これでもかと挙げています。サウル王に追われた武人ダビデならではの形容です。荒野が広がる地においては自分を隠す隠れる場がなければ、すぐに敵の餌食となります。皆さんであればどのようなものを連想しますか？

・苦難の経験(5-6)と主への叫び(7) 死の縄、陰府の網が執拗に信仰者に絡みつきます。奈落の激流、今年の台風の水害にあるように、イスラエルは過剰な水を最も恐れていました。原詩は「ペリヤアルの洪水」(II コリント 6:15 参照) です。世の秩序を脅かす混沌の表象です。そのような危機のさなか信仰者は主を「呼び求め」、その「叫び」は神殿に響き、主のみ前に至り、主の耳に届きます。祈りは空間を超えて、神に届くのです。

・恐るべき神顕現 主に任命されたメシアへの反逆は主なる神への反逆であり、主は怒りを啓示されます。地震、シナイの火山の爆発、蜜雲、暗い雨雲、大風とケルブ(参照イザヤ 19:1、詩編 104:3-4)、霧、雷鳴、稲妻と雹など自然の脅威に人はなすすべもなく、佇みます。津波で配偶者と漁具を失った男は「海が憎い！」と立ちすくみます。恵みを与える海は神ではなかったのです！そして、今新型コロナウイルス感染の脅威です。エジプトの戦車に追い詰められた時、紅海の葦の海に激しい東風が吹いて、海の底が露わになり、イスラエルが無事渡渉できたあの時のように、主なる神の助けを祈りましょう。この世の現象を神が、痛みをもって許すことはあっても、引き起こすはずはありません。現象の諸結果から第一原因である神を推論すること、犯人捜しは止めましょう。自分と人を傷つけるだけです。主よ、いつまでですか？ 主よ、助けて下さいと祈りましょう。主は、聴かれます。